

炭釜 宗充（すみがま・むねみつ）

1、プロフィール

作家。野球部員だった高校時代に頸椎を損傷し、その後、小説・詩等を執筆。1977(平成9)年度「デーリー詩壇」年間賞2位。小説「冬子の場合」で第4回新風舎出版大賞受賞。

<生没>

1967(昭和42)年8月25日 ~ 2011(平成23)年1月9日

<代表作>

小説「冬子の場合」(新風舎)、エッセイ『フィクショナルな記憶』(ブレイクスルー)、詩とエッセイ『ファラオンーダンテのように』(ブレイクスルー)、『スミハン日記』(ブレイクスルー)

<青森との関わり>

八戸市で生まれる。八戸市内の千葉幼稚園、吹上小、一中、八戸高校を卒業。出身地で創作活動が続ける。

2、作家解説

炭釜宗充氏は、1967(昭和42)年8月25日に八戸市に生まれる。私立千葉幼稚園、八戸市立吹上小学校・第一中学校、青森県立八戸高校を卒業。八戸高校野球部員だった1985.(昭和60)年夏、青森県予選前の練習中に飛球を追って他選手と交錯して頸椎損傷の重傷を負った。その夏、八戸高校野球部は青森県大会で優勝して甲子園に出場する。病院のベッドで声援を送った。

その後、自助装具をつけてパソコンで文字を打ち、小説や詩を執筆した。平成9年度デーリー東北新聞社「デーリー詩壇」年間賞2位受賞。1997(平成9)年に小説「冬子の場合」で第4回新風舎出版賞・大賞を受賞。1998(平成10)年8月10日に新風舎より刊行される。

1999(平成 11)年に父が死去。2000(平成 12)年 8 月 5 日から翌年 1 月 15 日まで腸閉塞の治療と褥瘡の手術で入院。地元誌に寄稿、連載するかたわら、創作企画サークル「ブレイクスルー」を結成し、2002(平成 14)年 11 月 10 日にエッセー集『フィクショナルな記憶』を同会より発行。「月刊はちのへ情報アミューズ」に 1999(平成 11)年 6 月から翌年 5 月まで掲載されたものと、「文芸はちのへ うみねこ」390 号から 392 号に掲載された随筆に加筆・修正を加え、25 話に再編集している。2002(平成 14)年 11 月 17 日にウィルサンピア八戸で開催された「ふれあい自立支援セミナー」で事例発表。2003(平成 15)年 6 月 11 日に『実験室』(ブレイクスルー)を創刊。2004(平成 16)年 1 月 1 日のデーリー東北「新春随想」に「ダンテスのように」を執筆。同年 2 月 27 日に八戸高校第一体育館で坂本サトル・炭釜宗充のトーク&ライブが開催される。さらに同年 10 月 3 日に「ファラオンーダンテスのように」をブレイクスルーより発行。詩と小説で半生を綴っている。平成 18 年度デーリー東北新聞に『スミハン日記』を全 39 回連載。2008(平成 20)年 10 月 8 日に『スミハン日記』をブレイクスルーより発行。

2011(平成 23)年 1 月 9 日、逝去。1 月 13 日の告別式では、八戸高校の同級生だったシンガーソングライター坂本サトルのアルバム『1:25PM』が流れていた。

3、資料紹介

○『冬子の場合』

図書

1998(平成 10)年 8 月 10 日

190mm × 130mm

事故で頸椎を損傷し、手足の自由と、ほぼ全身の知覚を失った僕に残されたのは、刺激なしには反応しない男性機能のみだった。膣欠乏症から再生した看護婦の冬子との性的関係を表現している。生殖本能を意識した性的人間としての生を希求する小説である。